

未来へ走り続ける —信楽高原 鐵道復旧に向けて—

昨年開通80周年をむかえた信楽高原鐵道信楽線は、國鉄から第三セクターへと生まれ変わり、昨年4月には「上下分離方式」を導入、健全経営をめざし新たなスタートを切りました。しかし、その直後、台風18号により甚大な被害に見舞われ、運休を余儀なくされたのです。復旧事業費や財政支援などが確定しないことにより市財政への影響が把握できなかったため、再開への目途がたちませんでした。このほど、国や県の支援が受けられることが明らかになり、復旧に向けて動き出すことができました。

地域の支援により走り続けてきた80年

大正の初期、陶業の発展とともに鐵道敷設の声が高まり、旧國鉄信楽線として昭和8年に開業してからは、たくさん信楽焼が貨物列車に積まれ全国各地に運ばれて行きました。また地域住民や観光利用

者の移動手段として大きな役割を果たしてきました。開通10年後の昭和18年には、第二次世界大戦の長期化に伴うレールや枕木の供出により信楽線は営業停止に追い込まれましたが、戦後、なんとか鐵道を走らせようと考える住民による労働奉仕や枕木材の提供などもあり、昭和22年に復活することができました。

昭和40年代に入ると國鉄の経営再建に向けた路線の見直しが行われ、信楽線は廃止対象路線となりました。危機感を抱いた住民は、「乗って残そう信楽線」をスローガンに廃止反対運動を展開し、一定の成果を残したものの昭和61年には廃止が決定となりました。しかしながら、昭和62年、住民の熱い思いを受けて県や旧信楽町が出資することとなり、第三セクター鐵道に運行が引き継がれることになったのです。

そして、第三セクター鐵道として軌道に乗った矢先であつた平成3年5月、決して忘れることはできない列車衝突事故が発生し、多額の負債が残りました。しかし、地域公共交通機関としての重要性から平成23年5月に西日本旅客鐵道株式会社が債権を放棄し、平成25年3月には県と市の債権放棄を含む特定調停が成立したことで、存続への道が繋がりました。それとともに、黒字化を進

鐵道を活かしたまちづくりへ

国をはじめ関係各位のご支援により最大の危機を乗り越え再開に踏み切ることができました。信楽高原鐵道（SKR）は、今後、鐵道を維持していく努力が必要となつてまいります。このことから、信楽高原鐵道株式会社に課された使命は大きく、今この時点から運行再開を見据え、経営改善計画をしっかりと精査しながら経営に全力を傾注していただければなりません。また、信楽地域の皆さん



甲賀市長
中嶋 武嗣

には、地域あげでの利用促進に大きな期待を寄せているところであり、地域の効果ある取り組みや熱意は市内全地域の皆さんの理解と機運を高め、利用促進につながるものと確信しています。甲賀市にとりまして鐵道を活かしたまちづくりは、宅地開発や企業誘致など地域の経済発展と産業振興において大変重要であり、JRとSKRとの連絡やJR草津線の鐵道網整備は、本市の発展には欠かせないものがあります。市としても、これまでSKRの再建に多方面で理解と協力をいただいた西日本旅客鐵道株式会社と連携を図りながら利用促進事業を実施するとともに、市が目指す「生活感幸」のまちづくりを進めてまいります。

運転を再開する日が1日も早く訪れることを

昨年9月の台風18号で被災された方々にお見舞い申し上げます。また、運休を余儀なくされて以降、バスによる代行輸送にご尽力された信楽高原鐵道株式会社の皆様や、運転再開に向けた課題の克服に多くの努力を積み重ねてこられた中嶋市長をはじめとする甲賀市、滋賀県ほか関係する全ての皆様に対し、心より敬意を表したいと思います。



西日本旅客鐵道株式会社
執行役員近畿統括本部京都支社長
藏原 潮 氏

ん、草津線をはじめとするJRの各線とネットワークを形成し、京阪神一円、あるいは全国から多くのお客様に信楽地域を訪れていただくための大切な路線です。弊社といたしましても、引き続き鐵道の安全確保に全力を傾注するとともに、地域の皆様と連携をとりながら沿線の魅力的な観光資源のPRに取り組みなど、地域の活性化と鐵道のご利用促進に向けて努力してまいります。安全で信頼していただける輸送サービスを毎日ご提供し、地域の皆様の生活を支え続けることは、鐵道に従事する者の使命であり、誇りでもあります。信楽高原鐵道におかれましては、地域の皆様へ愛され、必要とされる鐵道として、たくさんの方々の歓声に迎えられて運転を再開する日が1日も早く訪れることを願っております。

●平成26年 第1回 甲賀市議会臨時会

第1回甲賀市議会臨時会市が1月20日、開催されました。市が提案し、審議・可決された議案は次のとおりです。

- 平成25年度甲賀市一般会計補正予算(第6号)

●信楽高原鐵道災害復旧等事業費

■総事業費合計 / 7億3,740万円

【工事等の内容】

- 杣川橋梁復旧工事費 / 3億3,980万円
- 沿線の法面復旧工事費 / 2億2,600万円
- 電気、軌道整備費 / 2,220万円
- 第二大戸川橋補強費等 / 6,640万円
- 調査や設計の委託料 / 8,300万円

※国や県の支援により市の負担見込み額は、4千万円から6千万円程度

※7億3,740万円のうち、災害補助対象事業見込額6億7,000万円。第二大戸川橋補強費等については、鐵道施設安全対策事業費補助事業により対応